

入局者自己紹介



江口 詩織

出身大学：
東京医科歯科大学
卒業年：
平成 29 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

平成31年度（令和元年度）に入局させていただきました、江口 詩織と申します。小学校3年生まで茨城県つくば市で、その後は神奈川県横浜市で育ちました。東京医科歯科大学に入学し、在学中に研究に触れる機会があり、研究にも興味を持つきっかけになりました。卒後は東京医科歯科大学のプログラムで、1年目は草加市立病院、2年目は大学で初期研修を行いました。大学の小児科を回った際に、最新の研究が臨床応用され日々治療法が進歩している血液・腫瘍・免疫分野に魅力を感じ、その分野で主導的な立場にある東京医科歯科大学小児科へ入局を決めました。

専門領域を学ぶ前に小児科医としての基礎を築きたいと考え、後期研修の最初の2年間は一般小児やNICUの研修を希望しました。後期研修1年目の前半は東京北医療センター、後半は川口市立医療センター小児科で一般小児を学びました。右も左もわからない状態からのスタートでしたが、先生方の根気よい指導の下、common diseaseを幅広く経験することができました。後期研修2年目の現在は川口市立医療センターNICUに勤務しております。挿管やPI挿入などの手技を積極的にやらせていただける環境で、今まで苦手意識のあった全身管理も勉強でき、充実した日々を送っています。これまで熱心に指導してくださる先生方に恵まれて研修してこられたことに感謝するとともに、教えていただいたこと一つひとつをこれからの診療に活かしていく所存です。

まだ小児科医になったばかりですが、専門分野の臨床や研究などを含め、将来の夢は膨らんでいます。常に目標を持って日々精進していきたいと思いますので、今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。



金井 保澄

出身大学：
東京医科歯科大学
卒業年：
平成 29 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

東京医科歯科大学小児科に入局させていただきました金井 保澄と申します。

初期研修は東京医科歯科大学の周産期プログラムで1年目は土浦協同病院、2年目は大学で研修いたしました。1年目、2年目いずれの病院でも小児科をまわらせていただきました。それぞれの病院の特色があり、一般小児から専門性の高い疾患まで様々な症例を通して貴重な経験をさせていただくことができました。

こどもが好きだったこともあり、大学在学中に小児科に興味をもつようになりました。診療を通して子どもたちの成長・発達をみることができるとに魅力を感じ、小児科医を志しました。初期研修では先生方にたくさんの温かいご指導をいただき、この医局で働きたいと入局を決めました。

後期研修1年目は武蔵野赤十字病院、2年目は川口市立医療センターで研修をさせていただいております。日中の外来、夜間の当直、様々な症例を経験し、自身の未熟さを痛感しております。また同時に、後期研修医となつて1年を通じて外来をさせていただき、子どもたちの治療経過と成長をみることができ心うれしく思っております。今年度はCOVID-19の影響もあり通常の医療体制ではないことに戸惑いもありましたが、周囲の方々のおかげで有意義な研修を送ることができております。

至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、初心を忘れず日々精進していきたいと思ひます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



多湖 孟祐

出身大学：
弘前大学
卒業年：
平成 29 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

初めまして。2019年度に入局させていただいた多湖 孟祐と申します。

出身大学は弘前大学で、部活はサッカー部に所属してありました。学生時代は部活に没頭しており、大学時代の試験は全て気合いと追い込みで何とかクリアしてきました。

初期研修は東京医科歯科大学の小児周産期プログラムに属し1年目は土浦協同病院、2年目は大学病院でそれぞれ学ばせていただきました。

3年目は東京ベイ・浦安市川医療センターでご経験豊富な先生方のもとでcommon diseaseの児から重症心身障害児などの慢性かつ個人に合わせたオーダーメイドな医療が求められる患者さんまで幅広く診させていただきました。

今年の4月からは窓から海が見える千葉市立海浜病院で勤務させていただいております。当院は東京医科歯科大学の医局員が少なく、別の医局の先生と一緒に仕事をする機会が多くあります。そこで新たな刺激も受けつつ充実した日々を過ごしております。

これから診療技術や知識を磨きながらも、子ども達と過ごす時間のありがたみを忘れず、子ども達からも親からも信頼される小児科医を目指して日々邁進していきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



中溝 智也

出身大学：
東京医科歯科大学
卒業年：
平成 29 年
初期研修病院：
青梅市立総合病院

令和1年度に入局させていただきました中溝 智也と申します。

もともと子どもと触れ合うことが好きだったことから、医学の道を志して医学部に入ったときから将来の選択肢として小児科は第一の候補でした。医学部での勉強では自身が本当にこの道に向いているのかどうか自問自答をすることも多々ありましたが、学生時代の病棟実習と初期臨床研修を通じて自分は直接患者さんを診ることに一番のやりがいを感じることを発見しました。その中でも病気で困っている子どもとその家族のためなら自分の全力を尽くすことができると信じ、医科歯科大にて小児科医としての道を歩むことを決めました。

後期研修1年目からは土浦協同病院にて勤務させていただいております。令和元年の1年間は新生児科での勤務でしたが、初期研修ではほとんど触れることのなかった新生児領域からの研修スタートとなり不安でいっぱいだったことを今でも覚えています。1年間を通じて新生児科の先生方やスタッフの皆様にはご迷惑をかけるばかりでしたが、丁寧なご指導と貴重な勉強の機会をいただけたことは自分の中で大きな財産になりました。初めて主治医として患児とそのご家族と接することは様々な苦労もありましたが、担当させていただいた1人1人からそれ以上に大きな経験をさせていただいたと感じています。

令和2年度からは同院小児科にて研修させていただいております。一般小児に接することが初期研修以来であり、毎日の診療で様々な勉強をさせていただいております。

少しでも多くの小児とその家族の力となれるように精進してまいりますので、諸先輩方には今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



宮岡 双葉

出身大学：
東京医科歯科大学
卒業年：
平成 29 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

平成31年度に小児科に入局させていただいた宮岡 双葉と申します。物心ついた時から「学校の先生になりたい」と言いつつ、方向転換して医学の道に入ったこともあり、こどもと関わる診療科として小児科を志望しておりました。一方で多様な疾患群について学ぶうちに膠原病に興味を持ち、将来的には小児科か成人膠原病内科の二者択一の選択を迫られるのではないかと大変悩んでおりましたが、小児膠原病と出会ってからは迷いなく医科歯科小児科に入局させていただきました。

初期研修は青梅市立総合病院と東京医科歯科大学附属病院で行い、後期研修1年目は東京北医療センターで研修し、現在は川口市立医療センター小児科で研修させていただいております。発熱といった一般的症候やそもそも明確に症状を具現化しえない患者さんのなかに、膠原病をはじめとする疾患が紛れているということに日々気づかされます。こどもの総合診療医として全身を診る面白さに触れつつ、多様な疾病・症候への対応として各分野の先生方と連携して診療にあたることの大切さを痛感しております。

小児科医としてまだまだ始まったばかりですが、これから先、一般診療に加えて小児膠原病や移行期医療など様々な診療に携われたらと存じます。主治医として責任をもって診療を行うことの難しさに直面しつつも、上級医の先生方の丹念なご指導のもと充実した日々を送っております。先生方から頂いたご指導を糧により良い診療という形で患者さんに還元できるよう研鑽を積んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



横井 碧

出身大学：
東京医科歯科大学
卒業年：
平成 29 年
初期研修病院：
松戸市立総合医療センター

2019年に入局致しました、横井 碧（旧姓：茅切）と申します。

茨城県出身で、学生時代はダンス部、コーラス部、プライマリケア研究会に所属しておりました。趣味はダンス、編み物、ピアノです。

子どもが好きで、学生のころより小児科を志望しておりました。実習では重篤な状態から脱した患者さんの笑顔に触れ、小児医療のやりがいを感じるとともに、先生方が患者さんやご家族がよりよい日常を送れるようにと熱心に診療にあたっていらっしゃるお姿を拝見し、憧れを抱きました。その先生方の医局の一員に加えていただけたことを大変嬉しく存じます。

初期研修では松戸市立総合医療センターに勤務し、3年目は土浦協同病院NICU、4年目は同小児科に勤務しております。新生児科では赤ちゃんが成長し、家庭に帰っていく姿を見届けることができる点に喜びを覚えました。重篤な患者さんの治療にも携わり、赤ちゃんのご家族により良い時間を過ごしていただくにはどうしたらいいか、じっくり考え向き合う貴重な機会をいただきました。小児科では幅広い年齢層、幅広い疾患の診療の機会をいただき、学びを深めております。各グループをローテーションさせていただけるので、1年かけてさらに多くのことを吸収して参りたいと存じます。新生児科、小児科どちらの先生からも熱心に、また優しくご指導いただき、大変感謝致しております。

まだまだ未熟ではございますが、残りの後期研修を通して、引き続き小児の総合医としての力を磨いていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。